

「花美豚」いかがですか？

買い物客に試食を勧める大曲農高生



大曲農業高生徒飼育

大仙市の大曲農業高校2年生が22日、市内スーパーの店頭立ち、学校農場で生徒が育てた「大曲花美豚」の精肉を販売した。生徒による販売は3度目で、今回初めて2年生が挑戦した。

2年生、店頭で販売



「大曲花美豚」のステッカーが貼られた精肉

同校は、生徒が飼育した豚を出荷する際の銘柄として、昨年10月から「大曲花美豚」を使用。店頭に並ぶ際は、生徒が販売を体験している。お披露目となった10月は大仙市のスーパーで、12月には横手市のスーパーで、いずれも3年生が店頭に立っていた。

今回は大仙市のグランマートイーストモール店、同飯田店で2年生7人が販売。このうちイーストモール店では農薬科

学科で畜産を学ぶ3人が「大曲農業高校です」「高校生が育てた豚肉いかがですか」と買い物客に声をかけ、調理した肉の試食を勧めていた。

買い物に訪れた卒業生の団体職員高橋田佳さん（50）同市は「10月に買ったから、とてもおいしかった。後輩たちが苦労して育てたと思うと味が違う」と話し、「大曲花美豚」のステッカーを貼った肩ロース薄切りやステーキ肉を買い物かごに入れた。

販売を体験した伊藤芽生さんは「みんなで育てた豚。試食したお客さんにおいしい』『甘みがある』と言ってもらって、とてもうれし」と充実した表情を見せた。

両店はきょう23日も、花美豚を販売する。

（佐藤拓）